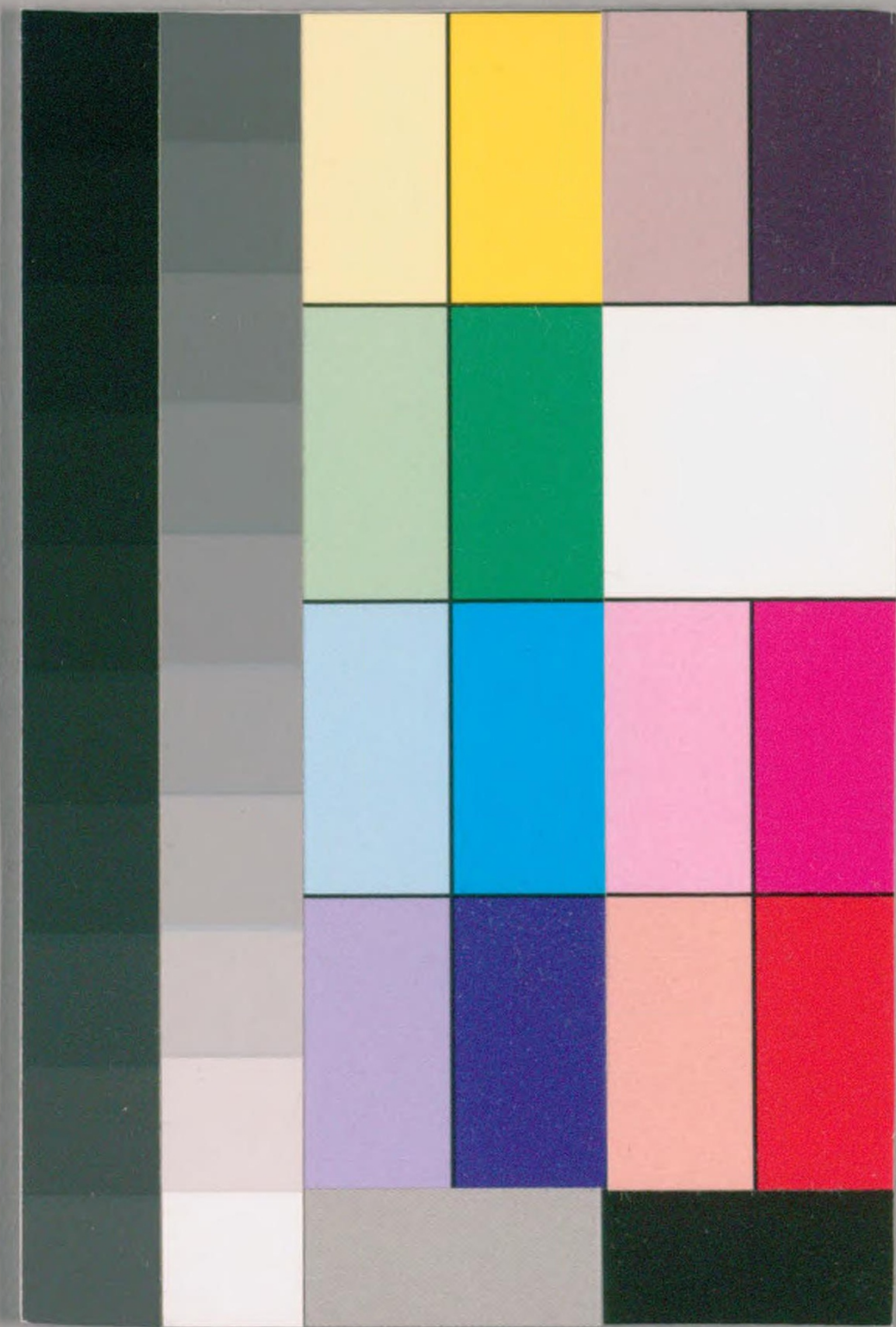




特1
2511

花壇朝顔通

2巻



国立国会図書館

タイトル『花壇朝顔通 2巻』 請求記号 特1-2511

ガラス使用

孝子華。和名抄云。阿佐の保。景
在朝似佳人。龍。有。絲。如。白。夏
日。美。衣。之。世。可。貴。如。此。花。捲
其。色。今。愛。此。美。其。太。多。其
花。採。亦。少。少。成。踏。成。裂。

阿佐の保。景

不固館
阿佐の保

花壇朝顔通

壺天堂主人
森春溪
河塩書屋梓

五
不固館



又有操志取。其愛德不可極。
其氣亦不一。極清奇。不可
愛。對之。則忘長友。入室。則
殆。而奪牝丹。柔子之。就矣。
友人畫天堂主人。壽于此本。

而其培甚甚。精密。之友。而
為白。念及于。數百種。以。其。信
画工。畫。溪子。以。使。寫。其。生。實
如。見。真。華。也。為。之。一。冊。子。以
彼。世。之。一。清。既。目。曰。朝。顏。通。

予亦因癖。且貴之日新之意。
因聊題數言。送其情耳。

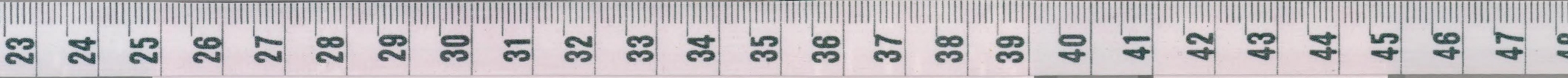
文化甲戌仲夏

松園識



二

Handwritten text in cursive style, likely a continuation of the inscription or a separate note. The text is written vertically in columns from right to left.



暖くも秋は久よりなり 處暑のれら
中て暑うりそしり末暖とわうて白秋
分よ終る凡一年の三分一あり
一相類凡百六十余品と載るお同をて底
のおと白とわり久大ふあり暖よ速速なり
或をもさしきり絞る或の白ふウルとあり又
紅の内ウルとあり久とわり久をウルメの生
辟をとり久 沙草ウルメの葉をもとわり久の

四



かともこれに数数と久却り初好者見え
りけごり一候と一候と一候と余と省く
一絞りも星とあり或のかとりとあり大か
かとりハサ地の花暖とあり別と暖かと
あるさ
一と久のからさづのきりハサとあり

凡例終



目録

御製

新田川

乙女

好華孔雀

櫻く

雪月書

挿の葵

今秘書

ハッ橋

序

後孔雀

濡燕

朱の書

葵の書

能雀

源の浪

翁孔雀

晚

越路の銘

心風

谷海送

比叟孔雀

葵の書

夕浪

鞆孔雀

若木

乱掛子

倉志布

翠孔雀書

ほの宿

目錄終

種名方	蔓を接法	二葉と見ても形を志すもの	口決	子咲仕法	夜咲法
二ヶ条	挿芽の法				

厚の吉凶	厚入方	土持方	新獲乳石	破訓栢	誓	児桔授	厚綿
丈種仕法	種名方	種耐方	濡鳥	蝶の友	系欄	横雲	厚名楓

六

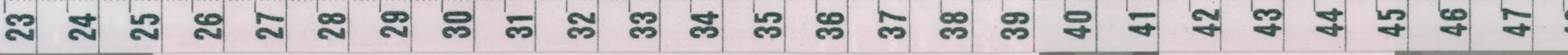
全躰之圖



花菴多牽牛シラサカホ清晨始開日出
已瘁ニホ花雖甚美而不能留賞スレ

宋邵康節

望遠雲凝岫粧餘黛散鈿
縹囊承曉露翠蓋拂秋烟
嚮慕非葵比凋零在槿先
才ワカニ供ス少頃ニ翫ス空廢ス日高賦ス



おく家の
ひらり

まゝあはれ

けしきよ

なる
なり

九

○ 楓葉あきば入こころ女を辨しら部

立田川 中紅

頃 戸 多うら

筑波 麓 多うら

修文 摺 多うら

村 雲 多うら

白 斑 厚 白

倉 摺 衣 多うら

糸 糸 結 多うら

通 了 橋 多うら

半 結 多うら

新 逢 生 多うら

龍田川



十

くれふの先咲いそと立田川
 ともから我々さぬ花の朝魚
 新魚子よふあやうらぬあ紫
 まけそ人のあなたらこ河
 頃うらふもあもあはむ舞の
 美心さうたよとさしれから

全
 解中丸
 徽山



ハツ橋



○花系右ノ目ニ斑世ノ部

ハツ橋

うろたふり

野

分

儂

蝦夷錦

紅赤なり

半

友

儂

夕

儂

暁

生

儂

飛鳥川

儂

暁

儂

夕

虹

儂

紅

儂

忍

音

儂

夕

儂

蘇

臺

清

幸

儂

乙女



名一ゆふゆふの風よこるれつ
垣根城たつあさうほのか

解り

こらけくわもこらけ橋ハ二里と
こらけ折よこるあけくち

全

○細糸斑入る縮切の部

乙女 尾より志あり

ととあ子いつてかんとはくよの糸あ
朝きつたよう志ありゆうよに

欠部

十二

薄衣



○細糸花端襦袢部

薄衣 白
薄衣 白
薄衣 白
薄衣 白
薄衣 白
薄衣 白
薄衣 白
薄衣 白
薄衣 白
薄衣 白

天人也
解の
新兵の
湯



翠孔雀

○草薺系斑入系中の魔出部

翠孔雀 多し

銀孔雀 多し

緑 | うすうす

縹 | 多し
あざき
あざき

おのほろみくろのまふもあめの玉

美丸

光りあざき次孔雀朝うは

瑞穂のまねくらりあめの玉とあざ

冬丸

みくろ孔雀とよきあざき

十四

紋孔雀



十五

○花紫女子目一斑五部

紋孔雀 花紫女子目

斑五部

時雨 花紫女子目

時雨 花紫女子目

虹 花紫女子目

虹 花紫女子目

更紗 花紫女子目

更紗 花紫女子目

村雨 花紫女子目

村雨 花紫女子目

紅 花紫女子目

紅 花紫女子目



猩頭

紅のいざよひのこころおぼの
 いたるや人跡魚のさ
 櫻こときんか〜〜〜朝鳥の
 あ〜〜〜のよ〜〜〜

枕草園

園祐

猩頭 ちねをなごまあり一品

○ ちね斑入花大密こまめ大こまめの

濡燕



○花大よ密く紅さう部

濡燕

ろう

黒い燕

極むら

紅

いぬ

新白の唇言月ほるゆわい燕

蓮系

つるまゝいさよういさゆる袖垣

解り丸

咲ぬゆさんねよてにふらさる

恭郷

ゆわたのさき切もものま

雪月臺



○斑入葉房ちやどいり咲部

雪月臺ふんばり

紅葉

紅葉

お翠臺極うり

虹臺

紅葉

咲部お翠のうりかきうり月臺

旭丸

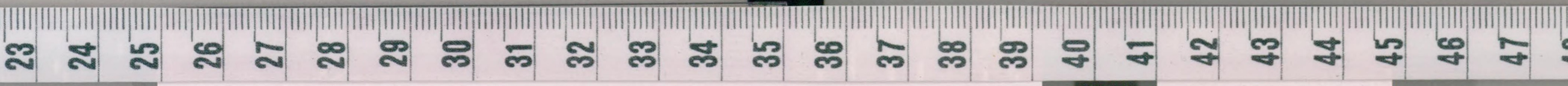
みづのうりかきうり

お翠のうりかきうり

お翠のうりかきうり

海丸

朱 〇 花系右ノ目一斑世部
 朱 産 如 紅 時 雨 壺 〇 〇 〇 〇
 月 一 〇 〇 〇 更 弥 一 〇 〇 〇 〇
 錦 一 〇 〇 〇 錦 一 〇 〇 〇 〇
 緑 一 〇 〇 〇 紫 一 〇 〇 〇 〇
 雲 一 〇 〇 〇 紅 一 〇 〇 〇 〇
 雪 一 〇 〇 〇 〇 一 〇 〇 〇 〇



柿の葵



○ 葵の葉を
 柿の葵 産する 一品

みずかき 柿の葵は
 けしき 柿の葵は
 柿の葵は 柿の葵は
 柿の葵は 柿の葵は
 柿の葵は 柿の葵は
 柿の葵は 柿の葵は

尚監

みずかき

葵
叶



○葵葉ふ花抱かか咲

葵子 葉は三つ切切とさきとら

二葉よりおのちさきとら

葉知

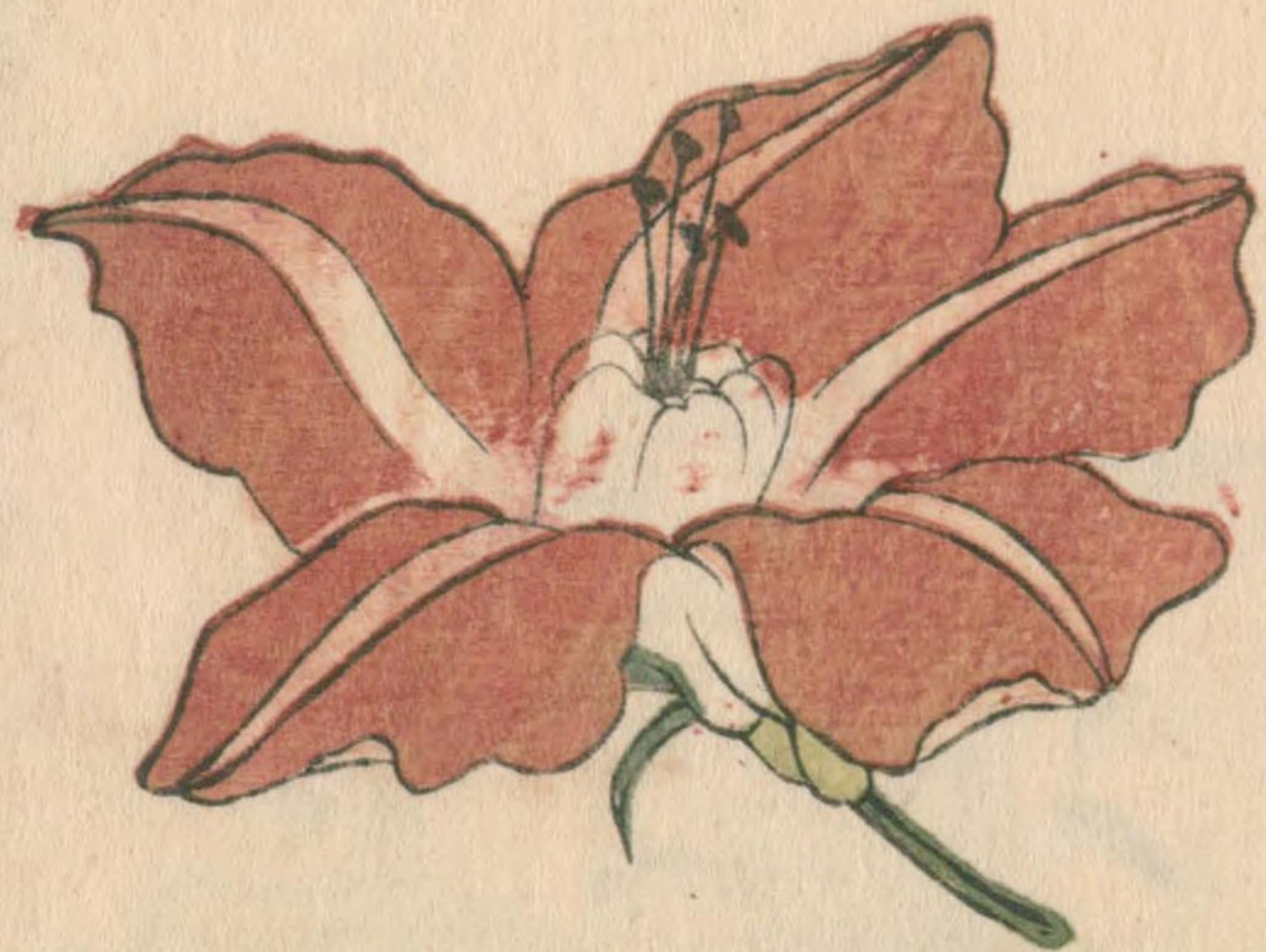
あふりつらつにありぬ程

おのちさきとらと夕顔の葉

葉知

あふりつらつにありぬ程

物々雀



○楓系不揃形廣く咲部

雌雀 尾紅

飛雀 白い色

吉原雀 柄さ

名りあふ物々雀とよふ

椀丸

志すまよふ中よとさうね

ふよくそ中よとさうね

冬丸

ふらう雀よふとさうね

廿二

翠々臺



○草薺葉廣リ喉部 又ニ葉形も又徳口喉部

好翠々臺 ころり

紅翠々臺 紅

白翠々臺 白

花の名をふまへたるもの甚しや

為賢

好翠々臺 白に赤ふあはるる

きぬしのくさあはるる好翠々

廣海

くすのきあはるる好翠々

舞孔雀



舞孔雀 唐草(唐草) 一品

○草花紫斑入花端麗出

立上りしつれいふりき
 夕日そあゝ熟いほの
 江よあふふまよはけ朝風の
 縁の波のちぎるけ
 粟子

舞孔雀

晚 蟬



雪月

幻

夕ふらむ

天の戸

ささき

朝もし咲あきくはと月く

廣海

夕ふらむのよもくあり

夕ふらむ

はましくぬるまはらくは

抛丸

ゆけよふらむあきくはのよ

夕ふらむはらくは

粟子

夕ふらむはらくは一日の景

廿八

特1
2511

半庭残月影分凉
碧云花并转
更曲在风刀
为鹏子

上相氏

半庭残月影分凉
碧云花并转
更曲在风刀
为鹏子



三十

丹波若滝
草子
抄用



国立国会図書館

タイトル『花壇朝顔通 2巻』 請求記号 特1-2511

ガラス使用